

中層大規模
木造向け

多種加工機を追加導入

テクノウッドワークス

宮城県大崎市にCADセンターも開設

プレカット大手のテクノウッドワークス(TWW、栃木県鹿沼市、早川孝男社長)は、本社工場で3月中旬に多種加工機を追加導入した。3月下旬から本格稼働しており、老健施設やクラブハウスなど中層大規模木造の需要増加に対応した取り組みとなる。今回の多種加工機導入はTWWで2基目となるが、子会社(テクノONE)を含めると4基目となる。

追加設置したプレカだったため、新機で加工可能なサイズ幅がさきより広がった。同社の非住宅向けは材長は最大13メートルまでとなり、特殊な仕口加工などを得意とする。TWW本社工場の既存加工機は材長が最大8メートル

種加工機導入は約5年前と先発だが、機械を投入する前は手加工で特殊加工に対応してきた実績がある。現在も多種加工機で対応できない物件には手加工で応じ、加工内容によって最適な割り振りを実践している。機械オペレーター兼加工職人はTWWで常勤3人、テクノONEで同3人。繁忙期は増員するが、兼任できる工員が加工内容を吟味して業務を遂行するため、納品後のクレームがないことが強みとい



本社工場に設置した新ライン

続いた忙しいさはやや落ち着いたものの、例年どおり夏過ぎ辺りから忙しさが出てくると見ている。なお、TWWは宮城県大崎市で国内5カ所

う。また、TWWで多種加工機が2基体制になったことで、神社仏閣等の手加工主体の物件で受注量を増やすことも可能になった。TWWでは2011

年から大型及び特殊物件の受注を強化しており、16年の中層大規模物件の加工実績は7万坪と、全加工坪数の約10%を占める。戸建て住宅向けを含め、目先の受注動向は年度末まで

目となるCADセンターを4月に開設した。オペレーターは現在2人だが、今後、455人体制にしていく。同社のCADセンターは中国・大連に3カ所、国内5カ所の8カ所体制となった。